

刑を終えて出所した人と人権

～私の行政経験と社会的実践活動から考える～

恩賜財団済生会理事長
(財)日本更生保護協会理事
学習院大学法学部政治学科特別客員教授
炭谷 茂

1 初めに

(1) 私の行政経験から

37年2月の経験、平凡だったけれども多様な経験を積むことができた
「異端の官僚」(日本版フォーブス)、「変わり者の役人」(読売テレビ)

(2) 平成18年9月退官後の活動

① 自分の人生の指針に従って生きる

一度公務員として従事した仕事を生涯一個人として追及

② 人が避ける仕事を重点的に行う

重症心身障害、精神障害、知的障害、刑務所出所者、スラム、ホームレス、同和問題、在日コリアンなどの問題

2 日本において解決されない多くの社会問題

(1) 日本社会の底が割れている

高齢者の所在不明、孤独死・無縁死、自殺、児童虐待 ニート
不登校、引きこもり、いじめ、障害者の社会参加、ホームレス、
DV 等

(2) 古くからある問題は深刻化

例えば、刑余者の社会復帰、同和問題、障害者の社会参加
新しい問題が増加
例えば、ホームレス、児童虐待、DV

3 これらに背景にある要素に着目

(1) 社会との関係

社会的排除 孤立

← 家族・親族、地域社会、企業の絆の脆弱化

(2) 貧困

① 日本人の貧困観
中流意識

② 今は貧困層が沈殿・増加
高齢者
母子家庭、リストラされた 50 代、ニート
非正規雇用の増大
子どもに貧困が承継

4 最近の人権の変化も大きな影響

(1) 上滑りする人権

形式的には人権を知っているが、本当に理解しているか

(2) 若い世代の人権知識の不足

人との触れ合いの減少も

5 刑余者の最近の特色

(1) 上記の問題が典型的に現われている

① 高齢者の増大

全受刑者に占める 65 歳以上の割合 男性 7.2%
(21 年) 女性 10.0%

60 歳以上の高齢者 (2006)	日本	12.8%
	米	7.6%
	独	3.0%
	仏	4.0%

② 多数の障害者の存在

新規受刑者のうち IQ69 以下の者 23.1%
しかし療育手帳所持していない者が多い
410 名中 26 名のみ(平成 18 年調査)

(2) 問題が重複し、社会復帰の困難性

社会の偏見と差別

家族・親族も受け入れを拒む

貧困、働く場、住まい、慢性病、精神疾患、アルコール依存、薬物依存など

→ 再犯へ

65歳以上の満期釈放者のうち5年以内の刑務所入所率 約70%
知的障害者の平均受刑回数 約7回

6 ヨーロッパでも同様な社会状況

(1) 社会的排除問題が最大の政治課題

平成12年1月イギリスで知る

貧困者 障害者 外国人 若年失業者 薬物依存 ホームレスなど
問題の背景、状況は日本と類似

(2) ソーシャルインクルージョン(社会的包摂)の理念の登場
フランス、ドイツ、イタリア、EU

(3) 刑務所出所者にも有効

7 ソーシャルインクルージョンを具体化させるには

(1) 社会的啓発ではなく、具体的な事業が必要

仕事、教育、余暇活動 など

(2) 仕事が重要

人間としての尊厳、経済的自立、心身の健康、人とのつながり

今日の働く場の状況

刑務所出所者に対して

法務省 協力雇用主 約8,400人

仕事の種類が制限、正規雇用が少ない

平成18年から厚生労働省、法務省の連携事業

刑務所出所者等総合的就労支援対策

社会的企業の必要性

公的職場、一般企業に次ぐ第3の職場として

社会的な使命
ビジネス的な手法
生きがいのある仕事
住民参加

8 その一つとしてソーシャルファームが有効

(1) ヨーロッパの状況

- ① 1970年代北イタリア、トリエステで生まれる
精神病院の入院患者
ドイツ、ギリシャ、イギリス、スウェーデン等へ
当事者の参加
刑務所出所者も対象に発展
ソーシャルファーム法の対象に刑務所出所者も含むことを明記
している国も
イタリア、ポーランド、リトアニア

② 1万社以上設立

リサイクル、有機農法、ホテル、スーパーマーケットなど
スウェーデンのソーシャルファーム「ウエイアウト協同組合」
保護観察中の者の就労
Tシャツの印刷、ケータリング

(2) 日本に2千社の設置を

① 対象者

刑務所出所者とともに
障害者、高齢者、難病患者、ニート、引きこもり等の若者
など通常の労働市場では仕事が見つからない者
2千万人以上

② 仕事の種類

環境 秦野市弘済学園の古本販売
寿町での電気器具リサイクル
西尾市くるみ会での食品廃棄物のコンポスト化
福祉 豊島区豊芯会の高齢者向け宅配弁当
ワーカーズコープのホームヘルパー派遣
農業 飯能市NPOたんぽぽの自然農法

新得町共働学舎によるチーズ作り
林業 玉野市のぞみ園の竹炭作り
サービス業 姫路市の門口堅蔵氏の刑務所出所者のための白
鳥城

いずれも 21 世紀の重要かつ有望な国内産業

③ このためには

イ) 商品・サービス開発

ニッチな分野、労働集約的、デザイン、ロゴマーク
アンテナショップ

ロ) 特性の活用

北広島市の環境開発工業のケース

ハ) 市民の協力

ボランティア、資金、消費者

ニ) 国際連携

ホ) オーガナイザー

使命感のある人
保護司の方の使命感

④ ソーシャルファームジャパンを 20 年 12 月に設置

今年 11 月 20 日 東京都新宿区戸山サンライズで総会

9 福祉等との連携が重要

(1) 福祉関係者の更生保護への関心が薄い

社会福祉法の規定が影響

ニーズがある限り福祉関係者は取り組む必要

地方自治体の関心も乏しい

平成 21 年度大阪府人権協会調査

1,686 の社会福祉施設に刑務所出所者の受け入れ状況の照会

回収率 14.8% 受け入れ実績の施設 12 のみ

歴史的に留岡幸助、山室軍平、原胤昭ら社会事業家は真っ先にこれらの者を対象に活動

(2) 済生会の事業

① 日本最大の医療・福祉団体（多分世界最大か？）

5月30日に100周年

370余の病院、福祉施設、5万人の従事者

② 済生会の本来的使命

593年の聖徳太子の施薬院、悲田院に原点

長年の皇室の伝統

持統天皇 罪人に布や稲を下賜

明治44年 明治天皇の済生勅語によって発足

医療や福祉サービスに恵まれない人々へのサービス

社会の最終ラインを守る

③ 22年度から「なでしこプラン」の開始

更生保護事業について法務省関係機関と連携して対応

医療、福祉などの面で

更生保護の課題の一つ

このような組織的な対応は歴史的なこと

大分県済生会は昨年6月から、福井県済生会は今年4月、富山県済

生会は10月から地域生活定着支援センターを開始

相当の実績を挙げる

埼玉、栃木、大阪など各地で更生保護施設の入所者の健診

初めて健診を受けた人も

社会と交わり

就職するために必須

10 終わりに

刑務所出所者問題は人権問題が最も明確に表れる。
人権施策の試金石である。

(了)